16NJ各部の編成 （23WSJ各部を含む：2012.7.25.現在）

日本連盟理事会

世界スカウト機構／アジア太平洋地域

【運営チーム：JMT】

16NJ 実行委員会

〈委員長〉
堀江建治

〈委員〉
中野まり
市川 熙
中野 充
勝師 功
鈴木令子
牛山佳久
江原一郎
佐野友保
村田禎章
増田秀夫
西村伸次
福嶋正己
アブドゥラ ラシード

〈委員長付〉
富岡賢一

16NJ・JMT
16NJ 実行委員により編成

23WSJ 実行委員会
〈委員長〉
西村 稔
〈副委員長〉
市川 熙
江原一郎
中野まり
〈委員〉
久米邦貞
新藤信夫
勝師 功
村田禎章
鈴木令子
堀江建治
牛山佳久
佐野友保
中野 充
酒井幸雄
吉田俊仁

23WSJ・JMT
〈チェアマン〉
中野まり
世界スカウト委員
〈メンバー〉
市川 熙
中野 充
鈴木令子
牛山佳久
江原一郎
佐野友保
勝師 功
堀江建治
村田禎章
〈アドバイザー〉
廣瀬 修
〈23WSJO〉
佐藤栄保
岩崎広志

アドミニストレーション分野 担当JMT
江原一郎
鈴木令子

コミュニケーション分野 担当JMT
中野 充

プログラム分野 担当JMT
勝師 功
村田禎章

ロジスティックス分野 担当JMT
市川 熙
牛山佳久

特別分野
地域資源委員会
国際委員会
プログラム委員会

【大会各部】 / 【16NJ各部の部長 等】

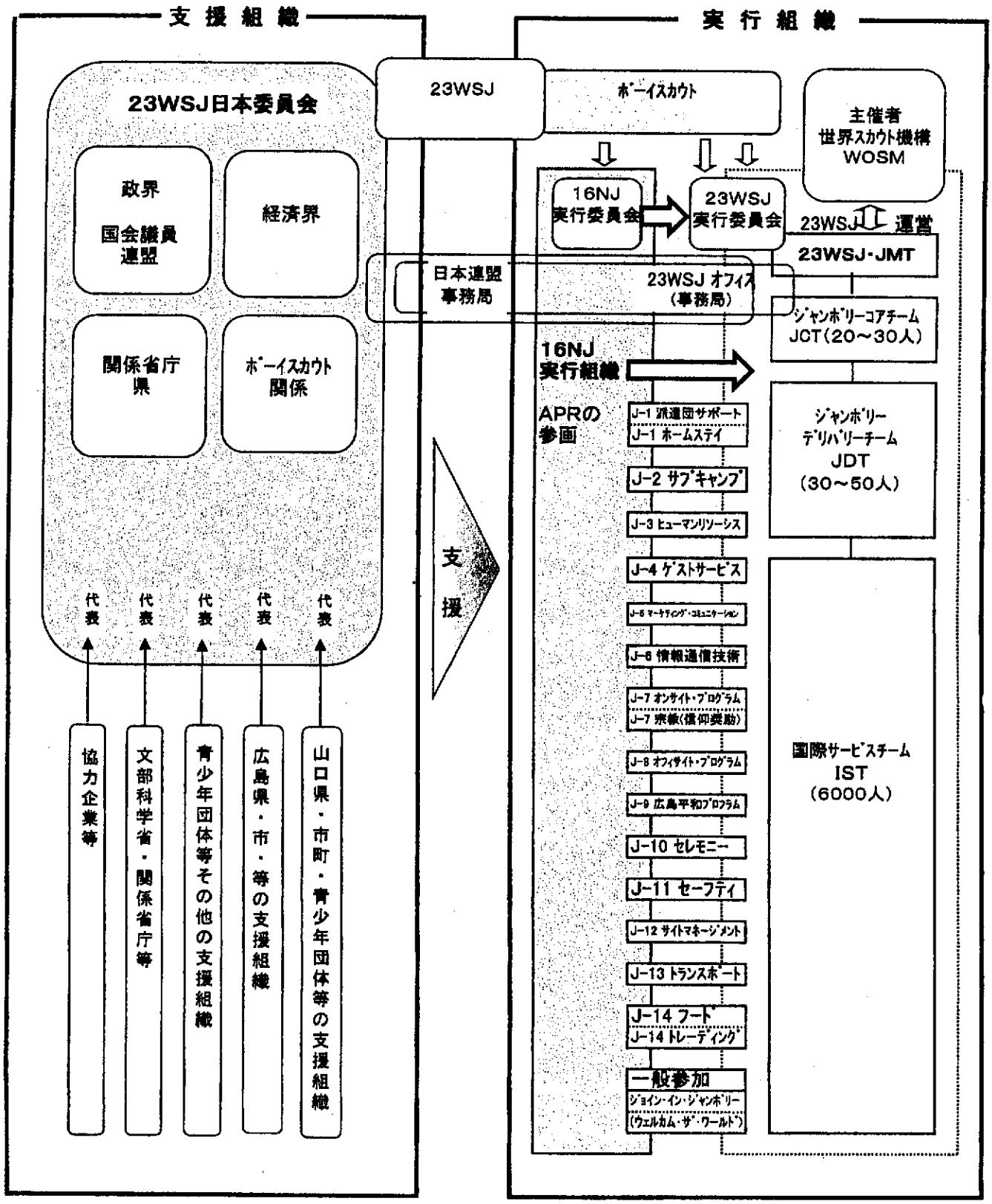
	【大会各部】	【16NJ各部の部長 等】
J-01	派遣団サポート (Contingents Support)	派遣団サポート部長：戸部恵一
	ホームステイ (Home Hospitality)	ホームステイ部長：谷口 修
J-02	サブキャンプ (Sub Camps)	サブキャンプ部長：出田行徳
J-03	大会運営スタッフ（ヒューマン・リソーシス） (Human Resources)	大会運営スタッフ部長：中村倫之
J-04	ゲストサービス (Guest Service)	ゲストサービス部長：滝 克己
J-05	マーケティング・コミュニケーション (Marketing and Communications)	M&C部長：畠山武司
J-06	情報通信技術・参加者登録（ICT） (Information Communication Technology)	ICT部長：中橋 邦
J-07	場内（オンサイト）プログラム (On Site Programme /Daily Programme)	16NJ場内プログラム部長：山内直元
		GDVモジュール長：小橋克哉
		CRCモジュール長：幸田雅夫
		COSモジュール長：村山大介
		フリータイム・モジュール長：（兼務）
	宗教（信仰奨励） (Faith and Beliefs)	16NJ宗教部長：土山和雅
J-08	場外（オフサイト）プログラム (Off Site Programme)	16NJ場外プログラム部長：友田宏幸
		地域社会奉仕モジュール長：
		水上活動モジュール長：
		自然探求モジュール長
J-09	広島平和プログラム (Hiroshima Peace Programme)	16NJ広島平和プロ部長：酒井幸雄
J-10	セレモニー (Ceremonies)	16NJセレモニー部長：赤塚広之
J-11	安全・救護（セーフティ） (Safety)	16NJセーフティ部長：中川玄一
J-12	会場運営（サイトマネージメント） (Site Management)	16NJサイトマネージメント部長：諫山 清
J-13	輸送 (Transport)	16NJ輸送部長：森 義勝
J-14	配給・食堂（フード） (Food)	16NJフード部長：磯部勝由
	販売サービス (Trading)	16NJ販売サービス部長：若野隆夫
	一般（オープン）参加	16NJオープン参加部長：
	ジョイン・イン・ジャンボリー ウェルカム・ザ・ワールド	JIJ・WTW推進部長：

〈参考〉

第23回世界スカウトジャンボリー（23WSJ）関係組織図

＊23WSJ（国内）準備委員会は23WSJ実行組織に合流
＊実行組織の任期は23WSJ終了までを前提とするが、世界アダルトリソーシス方針に沿い16NJ終了後に継続の有無、再配置等が確認される

2011年11月09日現在



１６ＮＪ県連盟派遣団の業務と編成

(2012. 1. 26. 現在)

１．派遣団の編成

大会の参加にあたっては、ボーイスカウトの都道府県連盟(以下、県連盟と略す)、各国連盟、関係諸団体単位で派遣団を編成する。海外からのスカウト関係者の参加は、当該国連盟が承認した派遣団とする。

派遣団は、参加隊（スカウト・引率指導者)、派遣団本部員、大会運営スタッフ（国際サービスチーム員：ＩＳＴを含む）で編成し、諸調整を行う派遣団本部を置く。

派遣団本部員は、参加申し込み等の諸手続きや輸送計画を調整するとともに、派遣団参加者に大会の情報を伝え、参加準備を支援する。

また、派遣団本部員は、大会期間中の当該派遣団参加者に関する事件・事故等の問題解決を支援するとともに、各地域のスカウト活動や関係諸団体の活動を紹介する等大会のプログラムに協力する。

派遣団の組織と業務の標準は、次のとおりとする。

（1）派遣団長

派遣団長は、派遣団を代表し、派遣準備および派遣団業務を統括する。

（2）副派遣団長

副派遣団長は、派遣団長を補佐し、派遣団長不在のときは、その職務を代行する。代行については、そのつど派遣団長が指示し、派遣団サポートに通報する。

少人数の派遣団においては、派遣団長の指示する業務を分掌する。

（3）参加隊担当本部員

参加隊担当本部員は、参加隊の準備ならびに期間中の各隊との連絡調整ついて、派遣団長を支援する。

参加隊指導者の傷病や急な帰宅等による欠員、および傷病スカウトの看護に際しては、当該参加隊の指導者を支援し、必要に応じて代行する。

（4）大会運営スタッフ（ＩＳＴ）担当本部員

大会運営スタッフ（ＩＳＴ）担当本部員は、ＩＳＴの募集と編成、事前準備等について、派遣団長を支援する。ＩＳＴの配属や到着・出発について、大会運営スタッフ部（ヒューマンリソーシス）と連携する。また、派遣団本部員を含む当該大会運営スタッフのキャンプ生活について、調整・管理する。

（5）輸送担当本部員

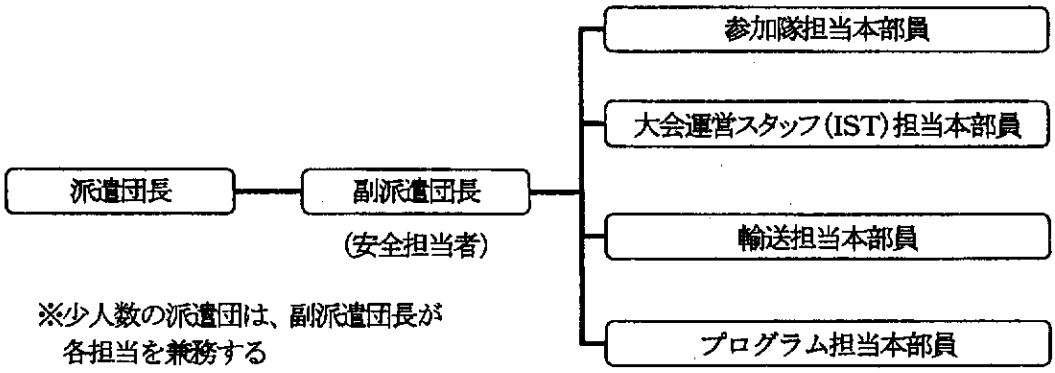
輸送担当本部員は、派遣団参加者の集散輸送ならびに資器材の輸送について、派遣団長を支援する。大会本部輸送部と協働して、派遣団の輸送計画について旅行業者・バス業者等と調整を図る。

（6）プログラム担当本部員

プログラム担当本部員は、ＡＰＲ（ワールド）スカウトセンターでの派遣団紹介プログラム、場内モジュールのブース運営、ならびに全体行事における派遣団からの出演者・演技に際して、その企画・実施について派遣団長を支援する。

ＡＰＲ（ワールド）スカウトセンター以外の県連盟派遣団提供プログラム（ＧＤＶ・ＣＲＣ・ＣＯＳ等）を運営するスタッフは、当該県連盟からのＩＳＴとなるが、プログラム担当本部員が調整にあたる。

〈派遣団標準組織図〉



※少人数の派遣団は、副派遣団長が各担当を兼務する

第１６回日本ジャンボリー　参加隊「準備訓練に対する留意事項」(案)

(2012.7.25.現在)

１．班編成について

参加隊は、４班で編成され１班は９人とされています。

１班９人の構成は、参加隊指導者の方々で協議して決めると共に、可能であれば参加スカウト、特に隊の運営の中軸となるベンチャースカウトの意向を考慮して編成することが望ましいと思われます。出来るだけ同じ団からの参加者は、日頃のコミュニケーションの面からも同じ班にすることが望ましいです。

１班の年齢構成は、異年齢教育を推進しており、２３ＷＳＪでも同様の編成となることから、ボーイ年代からベンチャー年代の混成にすることが好ましいと言えます。班は、ジャンボリーの全ての活動単位となるものですので、その編成には充分な配慮が必要です。

準備訓練では、この班が効果的にパトロールシステムを発揮できるように展開することが重要です。その為の仕掛け、ゲームや対班競点などを取り入れることも必要ですし、班内の役割分担も、スカウトの個性と資質に応じて班内で充分に協議して決めることが必要です。

ジャンボリーの参加隊は、各団からの混成による隊とは言えスカウト運動の基本に忠実に取り組む必要があります。

指導者の皆さんの的確な指導と助言が必要です。

班編成が出来たら出発までの間、班内のコミュニケーションが円滑にいくようにするための工夫が必要です。県連盟によっては、随時集まることが困難な場合もあるでしょうから、携帯電話等の活用で遠隔地にいても常時連絡がとれるような仕組みを作ることが必要です。

また、可能であれば保護者の皆さんとの懇談の場を設けて、高額な参加費用を負担して頂く訳ですから、ジャンボリーの意義は勿論のこと、スカウト運動全体が各スカウトの成長のために役立つものであることを、充分に理解して頂くことが必要です。

このことは、基本的に各団が実施すべきことですが、約１０日間もの間、スカウトの身体、生命等を預ける指導者がどのような人物であるかを知ってもらうことも必要なことです。

そして、班の生活、運営は班長が進めることですので、班長の指導力や班員の掌握と言う面でも、班長会議や班長訓練を実施することも、活動単位としての班のパトロールシステムを円滑に発揮するために重要なことですので、時を捉えて実施していく必要があります。

２．班の炊事および燃料について

今回のジャンボリーでは、炊事はカセットコンロを使用して行います。カセットコンロを通常のキャンプでは使用していないケースが多いと思われますが、カセットコンロの利便性や危険性について、事前に充分な学習が必要です。操作は簡単ですがガスボンベの取り扱いや保管方法により事故が発生する可能性があります。

また、炊事中の炊事具の転倒等によるやけども過去のジャンボリーでは数件発生しています。コンロ及び炊事具を安定した地面及び台に置く工夫が必要です。

炊事は、班炊事を基本としています。パトロールシステムを高揚させる良い機会ですので準備訓練では、ジャンボリーのメニューを参考にして料理コンテストなどを実施することも効果的です。

また、炊事に伴うゴミの処理の仕方とか、排水処理の仕方、食材を効果的に活用する方法、食料の保管方法、炊事具の収納方法、食器の管理等についても、可能な限り実践的な創意工夫を実施することが望まれます。

キャンプにおいて食事は楽しみの重要な一つです。楽しいジャンボリーであるかは、食事を楽しく食べられるかも重要なポイントです。事前訓練の必要性もこの点にもあります。

３．生活規律について

ジャンボリーは、日本ではかつてはお祭だといわれた時代があります。楽しくワイワイ騒ぐことが当たり前のように思われていましたが、世界スカウト機構（WOSM）はジャンボリーがスカウトにとって教育プログラムの場であると世界イベントガイドラインに指針を示しています。ここ数十年間の世界スカウトジャンボリーは、如何に教育的であるかを常に検証して準備から開催まで進んできています。

今回は、プレジャンボリーですが、教育プログラムであることは間違いないことですので、ジャンボリーでの生活規律は、必要な条件です。

規律と言うと、厳しくすることのように考えがちですが、そもそもスカウトである以上、生活規律を自主的に守り、規則正しくキャンプ生活を送ることが基本です。このことは、多くの事例が示すように、また創始者が繰り返し述べているように、指導者の姿勢に大きく影響されるものです。

規律正しいキャンプ生活は、指導者の実践に始まり指導者の実践に終わるといても過言ではありません。

点検、朝礼、活動にふさわしい服装の着用、サイト内の整理整頓、挨拶、等々は、まず指導者が示し、それをスカウトが実践することによって成り立ちます。

厳しくすることではなく、おのずと自主的にキャンプ生活を自己管理できるように示唆していくことが、指導者の役割です。

準備訓練では、初めてのメンバーとの顔合わせから始まり、ジャンボリーに向けての共同体験のスタートですので、指導者の方々の取り組み姿勢が肝心となります。

また、炊事と同様、「同じ釜の飯を食う」との日本の古い言葉があるように、共同体験の中での食事の重要性も、充分には配慮することが求められます。

１５ＮＪでは、近隣の住民の方々から「夜にスカウトや大人がうろうろ歩いている」「道路に平気でゴミを捨てている」「夜中まで騒いでいる」等の指摘がありました。

スカウトとしては、とても耐え難いことですが、指摘を率直に受け止める必要があります。このことは、ごく少数のことかもしれませんが、住民の方々からそのようにみられていることは、真摯に受け止めなければなりません。

まずもって、スカウトとしての自覚と責任ある行動が求められ、社会も一般の方々も、そして保護者の方々も、そのことを期待していることを再確認する必要があります。

４．スカウトの掌握について

１５ＮＪでは、緊急帰宅希望者が６人おりました。具体的には、自宅まで行き着いたスカウトが１人、東京駅で補導されたスカウトが１人、その他周辺の方々の協力で会場周辺で発見されたスカウトが４人です。年代的には、小学生のスカウトはゼロで、中学生以上のスカウトです。従って、キャンプに慣れていないことが要因とは考えにくいのです。

この状況は、今後も想定されるものと考えなければなりません。いつ、どの様に、どうして、原因は、と考察すると様々な要因が考えられますが、最終的には、隊内のコミュニケーション不足に集約されます。

今回、準備訓練に対する留意事項を提示するきっかけは、このことにあります。

準備段階からの、スカウト同士、スカウトと指導者、指導者同士等の円滑なコミュニケーションがもとめられているのです。

企業等でよく言われる、報告・連絡・相談のフレーズは、スカウト運動にも適合するものです。連盟歌にもある「耳そばだてて」聞くことが必要です。

また、直近の話題として「いじめ」がありますが、スカウトのキャンプでも起こりうることですし、ジャンボリーのように普段の交流が少ない仲間の中では、要因として配慮する必要があります。

スカウトにとっては楽しいはずのジャンボリーが、何かのきっかけで、逃げ出したくなる、音信不通になることは、必ず人間関係のゆがみが要因と考えるのが妥当と思います。

今回は、前回の経験を踏まえて対応を検討していますが、まずは、参加隊指導者の皆さんが、準備訓練の段階からスカウトをよく観察され、指導者間の連携を深めて、的確に対応されるようにお願い致します。

最後に、ジャンボリーに参加したスカウトの多くは、たとえスカウトを止めた後でも思い出に残る体験であったという感想を持つ方が大勢います。今回のジャンボリーを通じて、スカウトにとって、人生の思い出に残る楽しいジャンボリーとなるよう、指導者の皆さんの、ご尽力を宜しくお願い致します。

以　上